

平成 2 2 年度 (7 － 3 月期)

事業報告書

公益財団法人かわさき市民活動センター

平成22年度（7－3月期）に公益財団法人かわさき市民活動センターが実施した事業の概要は、次のとおりです。

なお、事業報告は、本来、平成22年7月以降の各事業の概要について記載することになりますが、市民活動推進事業と青少年健全育成事業については、事業の継続性や過去データとの比較の関係等から、7－3月期だけではなく、平成22年度全体についてまとめています。

I 法人の概況

1 沿革

昭和57年3月31日：「川崎ボランティアセンター」設立

昭和57年4月8日：「財団法人川崎ボランティアセンター」設立登記

平成15年4月1日：「財団法人かわさき市民活動センター」変更登記

平成22年7月1日：「公益財団法人かわさき市民活動センター」設立登記

2 目的（定款第3条）

この法人は、川崎市における市民活動の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与することを目的とする。

3 事業内容（定款第4条）

（1）この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ・ 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業
- ・ 市民活動に関する調査・研究事業
- ・ 市民活動に関する人材育成及び相談事業
- ・ 市民活動の促進・支援事業
- ・ 青少年の健全育成に関する事業
- ・ 青少年施設の管理運営の受託
- ・ 関係機関・関係団体等との連携
- ・ その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

（2）前項の事業については、川崎市において行うものとする。

4 行政庁に関する事項（平成23年3月31日現在）

神奈川県（保健福祉局地域保健福祉部福祉監査指導課）

5 主たる事務所（平成23年3月31日現在）

川崎市中原区新丸子東3-1100-12

6 役員等に関する事項（平成23年3月31日現在）

（1）理事（10名）

理事長 小倉敬子（代表理事）

副理事長 柏木靖男、難波一尚

常務理事 太田直（代表理事）

理事 飯田和子、小原良、小宮山健治

福 田 武 雄、牧野田 恵美子、安 岡 信 一

(2) 監 事 (2名)

宮 洋世紀、小 菅 猛

(3) 評議員 (9名)

岡 村 修、齊 藤 準、三 枝 博 男
佐 藤 知 久、菅 原 陽 子、竹 井 斎
仁 藤 公 子、東 田 乗 治、前 田 成 東

II 事業の状況

1 公益法人としての取組

当財団は、平成 22 年 7 月 1 日付で公益財団法人かわさき市民活動センターとして登記を行い、公益財団法人として新たなスタートを切りましたので、財団を挙げて、それぞれの事業の推進に向けて取り組んでまいりました。また、公益法人認定に伴い、ガバナンス及びコンプライアンスへの取組強化が求められていますので、効率的で効果的な組織整備と事業運営を図るため、規則等の整備を行うとともに、将来にわたって財団運営の安定化を図っていくため、職場研修などにより職員の業務スキルの向上に努めました。

経理・会計面では、公益法人会計基準(20 年改正基準)導入により、公益法人として適正な予算執行管理を行うとともに、会計処理を確実に行いました。また、発生主義会計原則に基づき、期間対応分の費用を賞与引当金繰入額として計上するとともに、財政基盤の安定確保と円滑な事業運営を図るために特別費用準備資金等取扱規則を制定しました。

監事の監査に関する事項についても、監事自ら規程(監事監査規程)を作成して、自身の監査の指針とするとともに、対外的にも自らの行動の概要を明示するなど、新制度における法令・規則等の遵守の徹底を図りました。

平成 22 年度は、財団の基本理念の確立と効率的な運営に資するため策定した新経営改善計画(平成 20~22 年度)の最終年度であるとともに、中長期計画(改訂版)の 2 度目の見直しを図る年度となることから、計画の推進及び進捗状況の適正な管理を行いながら、計画の着実な実現に向けて取組を進めてまいりましたが、この計画が川崎市の視点ですべての市出資法人に包括的に適用されたものであり、当財団の特性を踏まえ取り巻く環境変化に的確に対応して、公益財団法人として持続可能な組織を構築し公益的使命を達成していくためには、職員の意識改革をはじめ、様々な観点から業務改善等に取り組む必要があることから、平成 23 年 1 月に「財団変革プロジェクト」を立ち上げ、平成 23 年度中の変革計画策定と実践プロジェクトの実施に向けて、平成 23 年 3 月までは、財団の内的環境、外的環境にかかるデータ収集などの調査を行い、その結果をもとに財団の経営及び組織の課題を分析し、課題に対する取組方向について協議、検討を行いました。

なお、川崎市内で一番早く公益認定を受けましたので、川崎市の出資法人をはじめとして各地の法人からの問合せなどに、数多く対応しました。

2 市民活動推進事業の取組

利便性の高い現施設に移転して 2 年目の平成 22 年度は、施設利用者数や利用団体数は増加している状況ですが、市民活動推進の各事業を展開するに当たっては、中間支援組織として常に全市・全領域的立場から推進するとともに、事業計画に従って事業の充実、強化に努め、市民活動がより効率的・効果的に行えるよう取り組みました。

また、市民活動団体が組織運営や活動の推進に必要な活動資金について支援する、かわさき市民公益活動助成金制度は、助成金制度の充実を図ることを目的に制度検討プロジェクトを継続して推進するなど、市民活動団体にとって利用しやすい制度への見直しを図りました。

なお、3月11日に発生した東日本大震災への対応については、災害ボランティアネットワークを活用するとともに、川崎市、川崎市社会福祉協議会と連携して避難所の支援等を行いました。

3 青少年健全育成事業の取組

指定管理期間（平成18～22年度）の最終年度となる平成22年度も、引き続き運営協議会を中心とした地域の方々の理解と協力を得ながら、区こども支援室などの関係諸機関とも連携して、様々な事業に取り組むなど、川崎市における青少年健全育成の一翼を担ってきました。

なお、事業の実施に当たっては、こども文化センターで定例的に開催している子ども運営会議や意見箱に寄せられた子どもたちの意見を最大限に尊重して、事業の実施に努めました。

また、次期の指定管理者（平成23～27年度）については、当財団は、今日までの経験と実績に基づき、こども文化センターの指定管理者に最も求められる安心・安全なサービスを、確実に提供できる体制を構築しており、また、これまで培った地域との信頼関係をもとに、安定かつ地域と一体となった事業運営ができるものと考え、応募に向けて当財団の経験やスケールメリットを生かした提案書の作成等、着実に準備を進めました。その結果、53館のこども文化センター及び101校のわくわくプラザについて管理運営を受託しました。

平成22年度は、以下の事業に取り組みました。

(1) こども文化センター事業

市内のこども文化センター55館の指定管理業務を川崎市から受託し、適切に管理・運営しました。なお、主な取組は次のとおりです。

- | | |
|-------------------------|--------------|
| ・児童健全育成の促進 | ・研修制度の充実 |
| ・乳幼児の子育て支援 | ・子ども運営会議の充実 |
| ・中学生・高校生の居場所づくりの促進 | ・関係機関との連携の強化 |
| ・市民活動の地域拠点としての施設の有効活用 | ・施設の環境整備 |
| ・複数のこども文化センターによる合同行事の開催 | |

(2) わくわくプラザ事業

市立小学校に設置されたわくわくプラザ106校の指定管理業務を川崎市から受託し、適切に管理・運営しました。なお、主な取組は次のとおりです。

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・児童健全育成の促進 | ・研修制度の充実 |
| ・児童の安全確認 | ・子ども運営会議の充実 |
| ・地域ボランティアへの参加の働きかけ | ・関係機関との連携の強化 |
| ・巡回相談員の配置 | |

(3) 子育て支援・わくわくプラザ事業

子育て支援拡充の観点から、引き続き事業を受託し、106校で実施しました。

(4) 地域子育て支援事業（児童館型）

地域子育て支援策の一環として、引き続き20カ所で事業を実施しました。

併せて、0歳～就学前のお子さんと保護者の方が楽しく安心して遊べる場として、地域の関係諸機関と密に連携を図り、育児不安等についての相談、子育てサークル等の育成・支援、地域の保育資源の情報提供等積極的に取り組みました。

Ⅲ 事業の概要

1 市民活動推進事業

(1) 情報提供・啓発事業

① 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民が相互に情報交換を図るための情報誌として、年 12 回（偶数月各 48,000 部、奇数月 8,000 部）発行し、町内会・自治会、市内公共機関、関係団体及び賛助会員に配布しました。

また、視力障害者に情報を提供するため年 12 回音声テープを作成しました。

② 神奈川新聞紙面を活用した啓発、広報

神奈川新聞社の協力を得て、毎週土曜日「市民発 地域をつくる人・活動」と題したボランティア・市民活動等に関する様々な情報を、ボランティアの市民記者による取材・執筆で提供してきました。（東日本大震災の影響で、3 月は 2 週休載）

③ かわさきFM放送での情報発信

第 2、3 月曜日『かわさきDOWN STREAM』番組内に、当センター情報コーナー、市民活動団体紹介の枠を設け、平成 23 年 1 月放送分まで実施しました。

④ 財団ホームページの充実

市民活動に関する最新情報の掲載や、助成金制度及び市民活動保険制度の周知、各種事業の告知など、ほぼ毎週ホームページを更新し、情報提供を行いました。

⑤ ボランティア・市民活動紹介冊子の発行

市内のボランティア・市民活動を紹介する冊子「ボラナビ」を川崎市社会福祉協議会と共同して 5,000 部作成し、平成 22 年 6 月センター窓口、関係機関及び市内中学・高校に配布し、活動参加への促進を図りました。

⑥ かわさき市民活動ポータルサイトの運営

川崎市内における市民活動のポータル（入口）サイトとして、イベント・講座情報、ボランティア募集情報、団体詳細情報、民間助成金情報などを掲載しています。

(2) 調査研究事業

ボランティア・市民活動団体実態調査

当センターに利用登録しており、活動地域が明確な市民活動団体 461 団体を対象に、市民活動団体が日頃活用している市民活動拠点等及びその機能について、全市、区、地域の支援拠点を中心にその利用実態を調査し、結果を比較することで、各支援拠点に必要な機能を整理し、今後の事業企画、支援拠点のあり方検討の一資料とし、報告書（概要版）1,000 部を発行しました。

(3) 活動促進事業

① ボランティア・市民活動団体の育成諸活動

フリースペースや作業活動コーナーを合わせた、センターの全日の区分別利用団体数は、4,718 件と多くの団体に活用されました。ボランティアグループ等の活動に対してテント等、設備品の貸出を行いました。さらに、5 団体への組織自立を促進するため市民活動ブースを設置しています。また、11 団体に後援名義使用等を行い市民活動の促進を支援しました。内容等は以下のとおりです。

日 程	内 容	備 考
通 年	(1) 登録団体数 547 団体	
	(2) 会議室の利用状況 利用団体数 1,295 団体	前年度比較 利用団体数 674 増
	(3) 印刷機の利用状況 利用団体数 557 団体	前年度比較 利用団体数 100 増
	(4) フリースペース他利用状況 利用団体数 2,866 団体	前年度比較 利用団体数 557 増

② 企業等の社会貢献活動への支援

企業等が行う社会貢献活動への支援として、ポータルサイトへの情報掲載等を行いました。

③ 市民活動交流会の開催

市民活動団体の交流とセンター利用者の意見交換を目的とした交流会を平成 22 年 11 月 26 日に開催し、80 名の参加者がありました。

④ かわさきボランティア・市民活動フェアの開催

平成 23 年 1 月 29 日、中原市民館及びかわさき市民活動センターにおいてボランティア・市民活動フェア実行委員会、川崎市社会福祉協議会との共催で、ボランティア・市民活動団体による講演や体験コーナーなどの 26 の企画、市内 54 団体のパネル展示などを実施し、1,200 名の参加者がありました。

⑤ インターンシップ等（就業体験）の受け入れ

7 月と 1 月に専修大学 K S コミュニティ・ビジネスアカデミーからそれぞれ各 1 名（4 日間と 5 日間）、8 月には茨城大学から 1 名（10 日間）、2 月には産能短期大学から 1 名（10 日間）を受け入れました。

（4）研修・相談事業

① 各種研修講座の開催

ア ボランティア入門講座

小・中・高校生を対象として、ボランティアとは何かという基本や体験をする際の注意事項などの講義と活動体験の講座（チャレボラ 2010）を市・区社会福祉協議会と連携を図り 5 コース、8 プログラムで 230 名の参加がありました。

イ 市民活動基礎講座

これから、地域でボランティア・市民活動をしたいと考えている方のために、地域に密着した活動をしている団体の活動体験を通し、ボランティア・市民活動へのきっかけとする講座を 3 回開催し、8 名の参加者がありました。

ウ 市民記者養成講座

「市民による、市民のための情報発信」を目的に、専門家から取材や編集の基礎を習得する講座として平成 23 年 1 月 9、10 日に開催し、9 名の参加がありました。

エ 専門講座

中間支援組織のスタッフを対象に、「伝わるために必要なこと」と題し広報の仕方を学ぶ講座を平成 23 年 2 月 25 日に開催し、15 名の参加がありました。

オ ボランティア・市民活動団体パワーアップセミナー

組織マネジメントの視点での研修を全12回開催(うち5回は川崎市社会福祉協議会と共催)し、218名の参加がありました。内容等は以下のとおりです。

日 程	内 容	参加者	会 場 等
4月29日	(1) 「持続可能な活動のために」 講師：粉川一郎氏（武蔵大学社会学部准教授）	17名	かわさき市民活動センター
5月15日	(2) 「支援者拡大のコツ」 ～人を動かす「プレゼン力」が会員・寄付金を集める～ 講師：坂本文武氏（ウイタン アソシエイツ株式会社）	19名	かわさき市民活動センター
6月19日	(3) ミッションに合った団体運営と役割分担！ ～組織力アップのために～ 講師：手塚明美氏（NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会事務局長）	12名	かわさき市民活動センター
7月3日	(4) 「NPOの税務と会計（初級編）」 ～ムリなく作れる会計報告～ 講師：早坂毅氏（税理士）	30名	かわさき市民活動センター
7月31日	(5) 「サクッと情報発信」 ～ブログとポータルの活用～ 講師：山田泰久氏（日本財団）	21名	かわさき市民活動センター
8月28日	(6) 「チラシの作り方（初級編）」 ～ワード de チラシ～ 講師：笹子まさえ氏（NPO 法人市民文化パートナーシップかわさき理事）	25名	かわさき市民活動センター
10月2日	(7) 「資金調達のコツ」 ～資金の特性を知り、団体活動に適した資金調達について～ 講師：荻上健太郎（日本財団）	15名	エポックなかはら
11月6日	(8) 「NPO の税務と会計その2」 ～ムリなく作れる会計報告～ 講師：早坂毅氏（税理士）	17名	かわさき市民活動センター
12月18日	(9) 「強い団体を作るために」 ～団体にまつわるデータを読み解きこれからの活動に活かす方法～	16名	かわさき市民活動センター エポック中原
1月15日	(10) 「市民活動の仲間作りのコツ」 ～一人一人個性を活かし、魅力を引出すつながり作り～ 講師：竹迫和代氏（参画はぐくみ工房代表）	15名	かわさき市民活動センター

2月5日	(11)「開かれた組織にするために」 ～組織を育てる12のチカラ～ 講師：川北秀人氏（IIHOE 人と組織と地球のための 国際研究所代表）	16名	かわさき市民活動 センター
3月12日	(12)「ワードでチラシ part2」 ～ステキなチラシの作り方～ 講師：笹子まさえ氏（NPO 法人市民文化パートナー シップかわさき理事）	15名	かわさき市民活動 センター

カ 災害ボランティア養成講座

災害時におけるボランティアの養成を目的に、「災害ボランティアについて」と併せて「地域防災について、救急法や避難所運営、応急手当等」をテキストに基づいた講座を平成22年7月17日～19日に開催し、17名の参加がありました。また、中原消防署の救急隊員による、普通救命3時間講習を実施し、市民救命士の資格を全員が授与されました。

② 職員及び役員の派遣状況

各団体の要請に基づき、次のとおり職員及び役員を講師として派遣しました。

ア 職員派遣状況

回	日程	対象者	内 容（テーマ等）	開催場所
1	4月28日	市民17名	PTA活動研修会「これからの活動のために」	中原市民館
2	5月13日	理事10名	NPO法人花みずき総会「市民活動における今後の課題と取り組みについて」	生田中学校 特別創作活動センター
3	5月20日	市民52名	PTA活動研修会「これからの活動のために」	中原市民館
4	5月21日	市民35名	PTA活動研修	幸市民館
5	5月29日	市民21名	川崎区ボランティア連絡会 広報講座	教育文化会館
6	6月9日	市職員 200名	平成22年度若手職員研修 「市民活動の現状と課題」	川崎市役所第4庁舎
7	6月10日	市民30名	保育ボランティア講座「ボランティアってなに」	高津市民館
8	7月28日	市民10名	市民エンパワーメント研修 中学生・高校生ボランティア講座	宮前市民館
9	9月1日	生徒116名	ボランティア講話	中原中学校
10	9月24日	市民8名	シニアの社会参加支援事業 「今までの経験を生かして、地域で再デビュー」	高津市民館橘分館
11	10月30日	市民30名	災害時障害者等支援 「防災シミュレーション訓練」	県立高津養護学校
12	12月16日	市民18名	花と緑のまちづくり講座 市民活動に必要な保険制度	中原区役所
13	2月2日	市民18名	学習相談ボランティア養成講座	中原市民館

14	2月5日	市民1名	すくらむ塾 市民活動のはじめ方、つくり方、つづけ方	かわさき市民活動センター会議室
15	2月25日	市民13名	エンパワーメント講座	高津市民館橘分館
16	2月19日	役員・指導員40名	財団法人川崎市母子寡婦福祉協議会 役員・指導者研修会	熱川ビューホテル
17	3月1日	市民16名	家庭・地域教育学級	高津市民館橘分館
18	3月17日	市民15名	ボランティア保険説明会	高津区社会福祉協議会

イ 役員派遣状況

回	日程	対象者	内 容 (テーマ等)	開催場所
1	4月8日	市民	識字ボランティア研修 「識字ボランティアの活動と心構え」	麻生市民館
2	5月19日	市民	川崎区第二地区社協婦人部会研修 「年齢を問わず人との関わり方・地域で出来ること」	日進町会館
3	9月3日	市民	里山ボランティア育成講座・中級編 「ボランティアについて考える」	岡上分館
4	9月11日	市民	識字ボランティア入門研修 「市民館における日本語ボランティアの活動とは」	麻生市民館
5	9月28日	市民	アリーノ市民活動支援講座 第5回 「先輩に学び、スキルアップ」	アリーノ
6	11月11日	市民	シニアの社会参加支援活動事業 「シニアになってからの地域活動を考える」 ～職場人間から、地域人間へ～	教育文化会館
7	11月20日	市民	平成22年度麻生区協働推進事業 「見つけませんか！ 使える民間施設」	やまゆり
8	12月21日	学生	キャリア形成と自己実現 「女性とキャリア」	茨城大学
9	1月16日	市民	相模原市（仮称）市民協働推進条例シンポジウム 基調講演「協働の現状とこれからのまちづくり」	ソレイユさがみ
10	1月22日	市民	市民エンパワーメント研修 多文化共生社会と「生活者としての外国人」支援 第6回 「多文化共生社会における市民活動の役割などについて」	日吉分館
11	1月22日	市民	利用者交流会「しゃべろう会」 「夢を語ろう」～夢の向こうにみえること～ 活動の検証と今後の運営	保土ヶ谷アワーズ
12	2月5日	市民	目指そう！アクティブシニア達のセミナー 第3回 「シニア世代の市民参加」	やまゆり

13	2月8日	市民	保育ボランティア研修Ⅱ 第1回「ボランティアをはじめよう」	宮前市民館
14	2月15日	市民	保育ボランティア研修Ⅱ 第2回「多文化共生や異文化理解とはなんだろう」	宮前市民館
15	2月18日	市民	保育ボランティア講座 第5回「ボランティア活動をするにあたって」	多摩市民館
16	3月5日	市民	市民自主事業報告会 「市民自らつくる学びの場とは」	中原市民館

③ ボランティア・市民活動相談

市民活動相談は、窓口や電話による相談のほか、市民活動経験者である相談員による市民活動に関する相談をセンター窓口で実施しました。内容等は以下のとおりです。

日 程	内 容		備 考
通 年	ボランティア・市民活動相談 (1) 職員対応 (2) 市民活動相談員対応	94 件 46 件	平成 21 年度実績 71 件 5 件

④ 職員の研修受講

職員としての専門的知識の習得とともに資質の向上を図るため各種講座に参加しました。講座名等は以下のとおりです。

回	日 程	講座名	講 師	開催場所
1	5月27日 5月28日	民間 NPO 支援センター・将来を展望する会	日本 NPO センター 田尻 佳史氏	新東京カンファレンスコーナー
2	6月12日	市民活動とメディア	神奈川新聞総局長 加藤 聡	川崎市産業振興会館
3	6月18日	NPO 労務講座入門編	社会保険労務士 岩田 貞子氏	横浜市民活動支援センター
4	7月13日	ボランティア活動支援施設セミナー	I I HOE 代表 川北 秀人氏	かながわ県民活動サポートセンター
5	9月14日	市民目線の CSR フォーラム	一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎	総評会館
6	10月25日	NPO の会計基準	税理士 早坂 毅氏	大和市役所
7	11月9日 11月30日	欲しかった人材を獲得する方法を学ぶ	NPO 法人ユースビジョン 赤澤 清孝氏	かながわ県民活動サポートセンター

8	11月22日 11月23日	市民セクター全国会議 2010	日本 NPO センター 萩原 なつ子氏	日本青年館
9	11月27日	行列のできる講座とチラシ の作り方	NPO 法人男女共同参画おおた 牟田 静香氏	秦野市市民活動サ ポートセンター
10	12月 5日	NPO のための広報スキルア ップ	NPO 広報力向上委員会 坂口 和隆氏	ひらつか市民活動 センター
11	1月 14日	iSB 公共未来塾（第3期） オープニングシンポジウム	大阪ボランティア協会 早瀬 昇氏	関内フューチャー センター
12	1月25日	現役新聞記者による文章の 鍛え方	神奈川新聞社 佐藤 英仁氏	高津市民館
13	2月 5日 2月 6日	ファンドレイジング・日本 2011	公益法人協会 太田 達男氏他	日本財団ビル

（5）連絡調整事業

① 各種会議等の開催

ア 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

災害時におけるボランティア活動、市民活動フェア、人材育成講座の共同開催等に関して年間を通じて協議しました。

イ 川崎防災ボランティアネットワークの運営

平常時から活動分野を超えて、情報交換と連携強化を図るため、年4回定例会を開催しました。また、平成22年8月29日に旧河原町小学校における川崎市総合防災訓練に参加しました。

ウ かわさき市民公益活動助成金交付団体交流会の開催

従来（団体への講義の後に交流時間を設ける）を改め、平成22年4月18日かわさき市民公益活動助成金公開事業報告会と同時開催し、報告会で興味・関心をもった団体、類似の活動を行う団体同士が意見や情報を交換し、交流できる常設の交流スペースを設けました。

結果、26団体増の41団体、38名増加の計59名が参加しました。

エ NPO法人連絡会

毎月定例会を開催し、団体どうしの情報交換や連携・協力関係が生まれました。さらに、NPO 法人かわさき創造プロジェクトと川崎市主催の「シニアライフ講演会」では、協力団体として、その第2部のNPO 法人・シニア関連団体活動紹介&情報交流には6法人、同連絡会、かわさき市民活動センターも参加し、シニア世代の市民に市民活動への参画を呼びかけました。また、市民活動フェアと同時期に、中原市民ギャラリーにおいて、NPO 法人の活動紹介とパネル展示を行い、市内NPO 法人の紹介に努めました。

② 行政との連携

市民活動・ボランティア活動の調整を図るため、市民・こども局、各区役所等と情報交換を行いました。また、各区担当職員を配置して、区役所・市民館・区社協等と情報交換を行いました。

③ 公設市民活動支援施設ネットワーク会議への参加

神奈川県下のネットワーク会議に参加し、ボランティア・市民活動推進機関によるボランティア相談事業に関する協議や情報交換を行いました。

(6) 助成制度運営事業

かわさき市民公益活動助成金制度として、新しく活動を開始した団体が行う事業を対象としたスタートアップ助成と、これまでの活動を充実または拡大し行う事業及び類似の活動を新たに企画し行う事業を対象としたステップアップ助成A、B、Cの4つのメニューに基づき、52団体に事業助成を行いました。

制度事業も7年目となり、資金支援による団体運営の自立促進をめざすだけでなく、公開によるプレゼンテーションや事業報告会を通じ、団体広報の活性化や他団体との連携促進にもつながりつつあります。

また、かわさき市民公益活動助成金の充実を図ることを目的に「かわさき市民公益活動助成金制度検討プロジェクト」を3回開催しました。前年度の申請書(様式)の見直しに伴う当助成金報告書(様式)の見直し、川崎市における他の助成金との並行申請の可能性、人件費の考え方など、市民活動団体にとって利用しやすい制度改善を行いました。

助成内容等は以下のとおりです。

日 程	助 成 内 容	確定交付額
通 年	かわさき市民公益活動助成金制度 平成22年度申請団体募集 2月12日～3月12日 ・スタートアップ助成ー確定交付9団体 (申請12団体) ・ステップアップ助成ー確定交付43団体 (申請61団体) かわさき市民公益活動助成金審査会 ・第1回審査会(22.4.18) 22年度スケジュール確認及び21年度公開事業報告会 ・第2回審査会(22.4.30) 第一次選考(書類審査) ・第3-1,2回審査会(22.5.22-23) 第二次選考(公開プレゼンテーション) ・第4回審査会(23.3.2) 22年度進捗及び公開事業報告会、23年度募集について	16,883,657円
	かわさき市民公益活動助成金制度検討プロジェクト 全3回開催	

(7) 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度運営事業

市民が安心してボランティア・市民活動に参加できるよう、また活動の活性化が図られるよう、事前登録の必要ない保険制度として川崎市から受託し、前年度より引き続き運営しました。内容等は以下のとおりです。

日 程	内 容
通 年	ボランティア事故申請件数 30 件 対象件数 27 件（賠償 3 件・傷害 24 件）、うち取り下げ 3 件（傷害） 保険金支払対象件数 24 件 保険金支払済額 18,404,985 円 内訳（発生年度別） 22 年度発生分 1,799,300 円（13 件分） 21 年度発生分 16,605,685 円（9 件分）全件完結 ボランティア補償制度説明 県民活動サポートセンター、区社協、公園緑地協会等

(8) 自主財源の確保

自主財源確保や賛助会費につきましては、多くの方々の御協力をいただきました。内容等は以下のとおりです。

日 程	内 容	備 考
通 年	賛助会費団体 340,000 円 賛助会費個人 345,000 円 募金箱等 129,081 円 一般寄付金 38,087 円	賛助会費 ・団体 1 口 5,000 円 ・個人 1 口 1,000 円

(9) 東日本大震災の対応

① 停電時の対応

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃発生した地震は、東北地方を中心として広域にわたる被害と多くの被災者を生みました。当センターも直後に停電となり、その後の業務が停止したが、当日夜間に復旧しました。しかし、福島原発の事故で東京電力による計画停電が実施され、当センターも 3 月 14 日、17 日、18 日に停電となりました。計画停電に係る当センター

施設利用は、次のとおり周知しました。

ア 16:50～20:30 又は 18:20～22:00 の場合

停電 10 分前から閉館とします。

イ その他の時間帯の場合

(ア) 午前 9 時から午後 9 時まで、通常業務を行っていますが、停電中は業務を停止します。

(イ) 停電が実施された場合は、出入りは、駐輪場の出入り口に限定されます。

(ウ) やむを得ない事情により、予告なく閉館することがあります。

なお、3 月 19 日より当センターは、計画停電を行う可能性のある地域の対象外となりました。

② 一時避難所の設置

川崎市は、3 月 19 日に川崎市体育館より移設して「とどろきアリーナ」に避難所を開設しました。川崎市は開設の際、一般ボランティアの受入れを決定したため、3 月 20 日に川崎市、川崎市社会福祉協議会、かわさき市民活動センターによる三者会議が開催され、市社協と市民活動センターにボランティア対応の協力要請がありました。

一般ボランティアの募集が 3 月 22 日から開始され、市の協力要請に基づき個人ボランティアの受付・登録は市社協が行いました。市民活動センターは、ボランティアの方々の業務割り振りや川崎市を含めた関係機関との連絡・調整の役割を担いました。

なお、3 月 30 日の三者会議において、個人ボランティアの避難所への受入れは、4 月 8 日で終了することが確認されました。

2 青少年健全育成事業

(1) こども文化センター事業

平成 22 年度のこども文化センター利用者総数は 1,530,018 名で、乳幼児、小学生、中学生、高校生、成人ともに利用者数は増加しました。こども文化センターにおける地域子育て支援センター(児童館型)事業「ふぁみいゆ」の開設等もあり、特に乳幼児と成人の利用者数が増加しました。

	20 年度 (55 館)		21 年度 (55 館)		22 年度 (55 館)	
総利用人数	1,388,557	(81,138)	1,380,450	(-8,107)	1,530,018	(149,568)
乳幼児	153,930	(13,984)	178,583	(24,653)	229,591	(51,008)
小学生	676,244	(33,743)	656,596	(-19,648)	690,465	(33,869)
中学生	223,250	(14,377)	190,481	(-32,769)	204,436	(13,955)
高校生	40,939	(5,614)	41,880	(941)	48,365	(6,485)
成人	294,194	(13,420)	312,910	(18,716)	357,161	(44,251)

市民活動利用団体数	10,331	(1,066)	10,665	(334)	10,377	(-288)
-----------	--------	---------	--------	-------	--------	--------

*利用比較表()は前年度との差

① 全市にかかわる実施事業

全館合同行事を通じて、参加児童の仲間づくりや交流の広がりを促し「生きる力」「創造性豊かな心」「共感する心」を支援すると共にこども文化センター共通の遊びを創出することを目的として実施しました。

昨年度までは、「わいわい祭り」とネーミングして実施してきましたが、55 館のこども文化センターが力を合わせて頑張っていきたいという意味を込め、「ゴーゴー☆55かわさキッズ」と変え、全館一致して取り組みました。

高津市民館において平成 23 年 1 月 6 日(木)「舞台発表 BUNBUN ステージ」を、中原市民館において平成 23 年 2 月 19 日(土)「マンカラ大会～マンカラカップ～」を全館合同行事として実施しました。「舞台発表 BUNBUN ステージ」は 20 団体の出演者 217 名、一般参加者 371 名、合計 588 名でした。「マンカラ大会～マンカラカップ～」は予選参加者 3,622 名、当日参加者 441 名、合計 4,063 名の参加者がありました。

② 各地区にかかわる事業

ア 合同行事

各区のこども文化センターが合同で、区内児童の交流と親睦を図ること目的として、地域性を生かした行事を実施しました。

区	実施年月日	内 容	参加人数	会 場
川 崎	平成 22 年 11 月 27 日 (土)	第 6 回川崎区 「スマイルフェスタ 2010 in Kawasaki ゲームでDON〜●*」	186	富士見中学校
幸	平成 23 年 1 月 29 日 (土)	さいわいキッズ☆ハンター	185	夢見ヶ崎動物公園
中 原	平成 22 年 10 月 16 日 (土)	「ウォークラリー」	168	川崎市中原平和 公園
高 津	平成 22 年 10 月 31 日 (日)	WANTED! Mr. ? をさがせ	115	宮崎区第 4 公園
宮 前	平成 22 年 10 月 16 日 (土)	「ドッジビー大会 ～みやりんピック 2010～」	136	向丘小学校 体育館
多 摩	平成 22 年 9 月 25 日 (土)	ウルたまクイズ 2010 ゲームで遊んで! クイズで勝負!	539	中野島小学校 アリーナ
麻 生	平成 22 年 9 月 25 日 (土)	麻生キッズ☆フェスティバル 2010 ※雨天のため雨プログラム	152	王禅寺ふるさと 公園 ※雨天の ため各此文

イ 関係諸機関が主催する行事への参加状況

各区役所及び市民館等関係諸機関が主催する行事にも積極的に参加することによって、こども文化センターのPRを行いました。参加した各区の行事は以下のとおりです。

区	実施年月日	内 容	参加人数	会 場
川 崎	平成 22 年 11 月 5 日 (金)	子育てフェスタ	560	教文会館
幸	平成 22 年 8 月 21 日 (土)	多文化フェスタさいわい 2010	600	幸市民館
	平成 22 年 10 月 16 日 (土) ～17 日 (日)	幸区民祭	800	幸区役所・ 幸市民館
	平成 23 年 2 月 26 日 (土)	子育てフェアさいわい	600	幸市民館
中 原	平成 22 年 11 月 27 日 (土)	なかはら子ども未来フェスタ	2,500	中原区役所
高 津	平成 22 年 11 月 13 日 (土)	高津区子育てフェスタ	1,200	高津市民館
	平成 22 年 9 月 14 日 (火)	子育てグループ in 高津	300	高津市民館
宮 前	平成 22 年 11 月 21 日 (日)	みやまえ子育てフェスタ	1,100	宮前市民館

多 摩	平成 22 年 9 月 19 日 (日)	たまたま子育て祭り	4,900	多摩区庁舎
麻 生	平成 22 年 9 月 12 日 (日)	案山子まつり	400	麻生区古沢 の田園地帯

ウ 人形劇

身近なところで、上質な文化財を提供することによって、地域の子どもたちの情操を高めようというのが人形劇上演のねらいです。

区	実施年月日	開催場所	劇 団	参加人数
川 崎	平成 22 年 12 月 18 日 (土)	川崎市福祉センター	劇団 ちろりん	160
幸	平成 22 年 8 月 5 日 (木)	幸市民館 大会議室	劇団 鳥獣戯画	150
中 原	平成 22 年 12 月 25 日 (土)	中原市民館	澁谷慶太	257
高 津	平成 22 年 8 月 3 日 (火)	エポック中原	劇団 鳥獣戯画	117
宮 前	平成 22 年 8 月 6 日 (金)	土橋小学校	劇団 鳥獣戯画	115
多 摩	平成 22 年 11 月 6 日 (土)	枳形こども文化センター	劇団 オフィス やまいも	105
麻 生	平成 23 年 1 月 29 日 (土)	麻生市民館	劇団だぶだぶ	339

③ 各こども文化センターにかかわる事業

ア 日常の子ども向け各種事業

各こども文化センターで組織した「子ども運営会議」の意見を行事に反映させるといった取組は、平成 22 年度も続けられ延べ 789 回（各センター平均 14 回）開催し、延べ 6,801 名（各センター平均 124 名）の参加がありました。

また、わくわくプラザでも「子ども運営会議」の意見を行事に反映させるといった取組は、延べ 1,410 回（各わくわくプラザ平均 13 回）開催し、延べ 43,829 名（各わくわくプラザ平均 413 名）の参加がありました。

特徴的な行事といたしましては、子どもたちの手による「おばけやしき」「ミニ運動会」や子どもたちの提案による「卓球大会」「お楽しみ会」などがあります。

子ども運営会議では、行事の企画や開催はもとより、こども文化センターの合同行事においても、積極的に参加し、事業の一端を担いました。

イ 運営協議会

平成 22 年度も地域の方々と職員がともにこども文化センターの様々な課題について協議を行うとともに、事業推進に向けた主体的な組織として運営協議会を設置し、963 名の地域の方々が運営委員として参画され、316 回（各センター平均 6 回）運営協議会が開催されました。

運営協議会が主催あるいはこども文化センターと共催で実施した行事は「こども祭り」「さんま祭り」「クリーン作戦」「餅つき大会」等様々で、こども文化センターの行事運営、施設利用のルール作り、地域団体との橋渡し等、その活動は多岐にわたっております。地域と共に開催する行事や、複合施設になっている館の共催行事等に取り組みました。

また、さらに連携を深めるために、各区において、各館の運営協議会の代表者が参加する「区運営委員会」を開催しました。

ウ 子育て支援

平成 22 年度は、延べ 6,306 団体（1 館平均 115 団体）の乳幼児サークルが、こども文化センターを利用しました。場の提供による支援に加え、館独自の乳幼児向けの行事の開催（親子コンサート、パネルシアター、ベビータッチケア等）、関係諸団体の協力を得た行事の開催（簡単なおやつ講座、子育てセミナー、親子リトミック、食育講座等）、栄養相談や乳幼児身体測定などを実施しました。

地域子育て支援会議等に参加し情報交換を行うとともに、地域の子育てネットワーク作りにも積極的にかかわりました。

エ 施設の有効活用

こども文化センターは地域の児童健全育成に寄与するという目的施設ではありますが、児童の利用が少ない時間帯を中心として、地域のボランティア、市民活動グループ等に場の提供を行いました。

平成 22 年度は、延べ 19,745 団体（1 館平均 359 団体）の、こども文化センター利用がありました。

活動内容は、会議や打ち合わせのほか、卓球、コーラス、ダンスといった趣味の活動にも利用されており、放課後は子どもたちの囲碁教室などの講師としてお手伝いしてくださる団体も見受けられました。

オ 施設的环境整備

日常の施設点検を密に行い、転落防止柵の設置、破損個所の修復、遊具等の整理等、施設の安全管理に取り組み、館内の壁紙の張替えやトイレの改修等、衛生面にも配慮し、快適で利用しやすい施設作りに努めました。

また、児童図書や遊具を購入し、利用者のための環境整備を行いました。

(2) わくわくプラザ事業

① 児童の登録状況

児童の登録及び利用状況の推移

年度	在校児童数	登録児童数	登録率	1ヶ月平均利用人数	一日平均利用人数
20年度 (107校)	65,634	29,473 (760)	45%	122,935 (5,886)	5,018 (240)
21年度 (106校)	66,454	28,916 (800)	44%	115,870 (5,985)	4,762 (246)
22年度 (106校)	66,476	28,789 (832)	43%	119,774 (6,418)	4,810 (263)

* 在校児童数および登録児童数は3月現在の数

* () 内は特別な支援を必要とする児童数

平成22年度は、当財団が所管する市立106校の在籍児童数66,476名のうち、28,789名が登録しており、約43%の登録率となります。月間の平均利用児童数は119,774名で、1日の平均利用児童数(土曜日等を含む)は4,810名で、登録児童数の17%でした。

特別な支援を必要とする児童登録数は832名で平成21年度に比べると32名増加しました。

特別な支援を必要とする児童の対応にかかわるスタッフの相談役として、前年度に引き続き4名の元養護学校や小学校校長経験者等を巡回相談員に配置し、様々な相談に対し、的確なアドバイスや指示を与えるとともに、スタッフ研修の講師も行いました。

② わくわくプラザで取り組んだ各種行事

わくわくプラザでは、「地域の文化伝承」「技能」「知識」を持つ人々を講師として起用し、通常の活動の中では経験できないような体験の機会を提供することによって、児童の情操を高め、創造性豊かな心、共感する心を育てることを目的に様々な活動を実施しました。

区	主 な 内 容	プラザ数
川崎	読み聞かせ、スプリングコンサート、ハンドベル演奏、なかよしチャチャコンサート、浴衣着付け教室、ベビーマッサージ、ホッケー教室、囲碁で遊ぼう、将棋で遊ぼう、クッキングおふくろ、お月見お茶会、腹話術、マジックショー、バルーンアート、手話教室、ベーコマ教室、けんだま、折り紙、アトム工房「虹を作ろう」、スポーツチャンバラ、サックス演奏、オカリナ&ギター演奏ほか	17 校
幸	読み聞かせ、大型紙芝居、ミニミニコンサート、クリスマス作り、ジャグリング、おかずクレープ作り、箱カメラ作りマジックショー、クラウンショー、アートバルーン、わくわく科学実験、多言語であそぼ、ベビーマッサージ、こま作り、ベーゴマ教室、お囃子ライブ、けん玉の達人、キラキラ万華鏡作り、七夕コンサート、アニメこま、ハープコンサート ほか	13 校
中原	科学教室、スプリングコンサート、水生昆虫ふれあい教室、キッズソーシャルダンス、バルーンアート、読み聞かせ、お茶会体験、パネルシアター観賞会、マジックショー、工作の日、おはなし会、手話ダンス、夢パークに遊びに行こう、きみも地球防衛隊、みんなであそぼう、廃油せっけんづくり、カレーランチ、バントマイムをみよう！、ほか	19 校
高津	読み聞かせ、スライム工作、陶芸教室、腹話術、伝承コマ検定、ふれあい囲碁、工作たこ作り、カルタ大会、豆まき、せっけん作り、サイエンスチャレンジ、スポーツチャンバラ、ジャグリング、フットサル大会、卓球大会、科学実験教室、中国語で遊ぼう、東高根森林公園遠足、バルーンアート、おやつ作り、 ほか	13 校
宮前	風を作ってあげよう、こどもサイエンス、バルーン教室、コマにチャレンジ、読み聞かせ、けん玉にチャレンジ、バトミントン教室、東芝科学館見学、流しソーメン、澁谷児童館遠足、ハンドベル、フラワーアレンジメント、卓球の日、、夢パーク遠足、ムズ沢の森でタケノコ堀、菅緑地遠足、菅生音楽祭参加、ハンドベル ほか	17 校
多摩	腹話術、ヒップホップダンス、一輪車教室、科学のふしぎ体験、マジックショー、ダブルダッチショー、おはなしコンサート、うぐいす笛作り、羽子板作り、段ボール工作、親子工作、エコアート、ソフト粘土、凧作り、けんだま、ハンドメイドサロン、かるた大会、読み聞かせ、いも掘り、梨狩り、こどもの森で遊ぼう、羽根木公園に遠足 ほか	12 校
麻生	ハンカチ藍染め、だいこん掘り、マジックショー、ピアノコンサート、陶芸教室、ストレッチ体操、ジャグリングショー・腹話術、押し花工作、湘南台文化センター遠足、人形劇、だんだんダンス教室、アクセサリー工作、駄菓子屋さん、手品で楽しもう、将棋を楽しもう ほか	15 校

(3) 共通（こども文化センター事業・わくわくプラザ事業）

① 職員研修の開催

職員の資質の向上を図るために、研修委員会を組織し、全館、各区、各こども文化センター、各わくわくプラザ単位で実施計画を策定し、研修の充実に努めました。

ア 財団主催の研修

全館を対象とした研修につきましては、児童厚生一・二級指導員資格取得及び、新任館長・職員の研修を中心として実施しました。現場に即した研修の取り組みでは、元小学校長を講師として、館長・職員を対象に、中高生対応や障がい児対応等をテーマに講演会形式で実施しました。

イ 資格取得研修

児童厚生施設に勤務する職員としての専門的知識の習得を目的として、児童厚生二級指導員の資格取得研修を実施しました。また館長の資質の向上を目的として児童厚生一級指導員資格取得研修を実施しました。全正規職員が資格取得することを目標とした、児童厚生二級資格取得研修につきましては、今年度は34名の職員が資格を取得し、全正規職員の97%が資格を取得しました。又児童厚生一級資格取得研修については、9名の館長が資格を取得し、全館長の53%が資格を取得しました。

ウ 各区の研修

各区を単位とした研修は、臨時職員も含め、「中高生の対応」「障がい児研修」を必須の項目として、また実務的な項目を各区の実情に応じて取り上げて実施しました。実施に際しては、研修委員会が研修プログラムを作成し、効率的かつ効果的に実施しました。

エ 各館の研修

各館を単位とした研修につきましても、各区の研修と同じく「応急手当研修」「中高生への対応」「障がい児への対応」「安全対策研修」など現場の業務に即した具体的かつ実践的な内容としました。

各館では、受講した研修の報告の場として定例的に職員会議や情報交換会等を開催し、職員間の情報の共有化を図りました。

	回	内 容	講 師	対 象	参加人数	会 場
財 団 主 催	1	接遇研修	交流分析士 長谷川 慶子氏	職員	80	中原区役所 会議室
	2	新規採用職員研修	青少年事業課長他	職員	26	中原区役所 会議室
	3	新規採用職員研修	市民活動推進課職員他	職員	26	中原区役所 会議室
	4	新起案・承認システム研修	(株)大塚商会担当者及び 青少年事業課職員	館長・職員	165	中原市民館

川崎区	5	新規採用職員研修	高津消防署職員	職員	2 6	高津消防署
	6	館長研修（中高生対応）	柿生こども文化センター 高林 慧館長	館長	3 1	宮崎こども文化センター
	7	館長研修（幼児・保護者への対応について）	小杉こども文化センター 藤本 歌子館長	館長	3 6	高津こども文化センター
	8	児童厚生二級指導員資格取得研修（全4回）	各科目で講師選定 ※児童健全育成推進財団との共催	職員	2 0	栃木県那須町
	9	新任館長研修（フォローアップ研修）	青少年事業課	館長	6	本部会議室
	10	館長研修（幼児・保護者への対応について）	小杉こども文化センター 藤本 歌子館長	館長	3 1	大山街道ふるさと館
	11	館長研修（中高生対応）	柿生こども文化センター 高林 慧館長	館長	3 6	大山街道ふるさと館
	12	全体館長研修（労務管理・事故対応）	社会保険労務士及び三井住友海上火災保険担当者	館長	5 5	生涯学習プラザ
	13	主任研修会	青少年事業課 炭山 泰江課長	主任	1 4	中原区役所会議室
	14	児童厚生二級指導員資格取得研修（全4回）	各科目で講師選定 ※児童健全育成推進財団との共催	職員	1 4	山梨県河口湖町
	15	児童厚生一級指導員資格取得研修（全4回）	児童健全育成推進財団主催	館長	9	東京都渋谷区
	16	新規採用職員研修（フォローアップ研修）	青少年事業課	職員	1 6	中原区役所会議室
	17	児童厚生二級指導員資格取得研修（フォローアップ研修）	児童健全育成推進財団	職員	3 4	東京都渋谷区
	18	新任館長研修	青少年事業課	館長	2	本部会議室
	19	新任館長研修	青少年事業課	館長	1	本部会議室
	1	中高生対応	川崎市教育委員会 川崎区担当指導主事 山川 俊英氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	1 2 3 2 7 1 5	教育文化会館会議室
	2	ケガ・応急手当	川崎市消防局救急課 白井 泰延氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 2 4 2 9 1 3 5	川崎消防署 4階講堂

	3	乳幼児・子育て支援研修	川崎市こども企画課 森田 喜巳子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 24 6 7 1	福祉センター 大ホール
	4	リフレッシュ体操	名川 絢子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	1 23 13 29 2	福祉センター 大ホール
	5	中堅児童厚生員等 研修会を受けて	小田こども文化センター 五十嵐 幸子館長	館長 職員	3 23	小田こども 文化センター
	6	中堅児童厚生員等 研修会を受けて	旭町こども文化センター 永岡 ひとみ館長	館長 職員	5 22	旭町こども 文化センター
	7	特別な支援を必要とする 児童との関わりにつ いて	障がい児巡回相談員 渋谷 美知子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 24 29 13 5	福祉センター 大ホール
	8	児童健全育成研修	児童健全育成推進財団 研修部部长 野澤 秀之氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 23 23 17 2	教育文化会館 大会議室
	1	中学生・高校生対応研修	川崎市教育委員会学校教育 部 幸区教育担当指導主事 仲野 雅子氏	館長 職員 サポーター パートナー	2 12 16 2	南河原こども 文化センター
	2	特別な支援を必要とする 児童研修	明星大学人文学部 心理・教育学科教授 星山 麻木氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	4 18 18 31 5	南河原こども 文化センター
幸 区	3	22年度中堅児童厚生 員による伝達講習会	小倉こども文化センター 役川 誠館長	館長 職員	4 19	下平間こども 文化センター
	4	レクリエーション研修	横浜レクリエーション協会 理事 木村 廣氏	館長 職員 チーフ	3 20 30	南加瀬こども 文化センター
	5	コミュニケーション研 修 (乳幼児とその保護者 への対応)	川崎市幸区役所こども支援 室担当課長 足立 百合子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 15 3 6 7	南河原こども 文化センター
	1	文書研修	中原区運営指導担当 島 忍主幹	館長	10	小杉こども 文化センター

中原区	2	職員情報交換会 (乳幼児の子育て支援について)	各施設館長・職員	館長 職員	2 2 5	住吉こども文化センター
	3	情報交換 レクリエーション研修	宮崎こども文化センター 品川 典子職員	館長 職員	4 2 2	大戸こども文化センター
	4	中高生対応研修	中原区教育指導主事 高倉 昭彦氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	4 2 1 1 6 3 2 1 9	中原市民館 大ホール
	5	職員情報交換会 遊びについて	各施設館長・職員	館長 職員	2 2 0	西加瀬こども文化センター
	6	中堅児童厚生員等 研修を受けて	玉川こども文化センター 脇田 博子館長	館長 職員	3 2 3	玉川こども文化センター
	7	中堅児童厚生員等 研修を受けて	井田こども文化センター 森田 弘子館長	館長 職員	5 2 4	井田こども文化センター
	8	臨時職員交換研修 (チーフサポーター)	各施設チーフ	チーフ	4 6	各施設
	9	臨時職員交換研修 (チーフサポーター) グループディスカッション	各施設館長・職員・チーフ	館長 職員 チーフ	2 1 0 4 3	新丸子こども文化センター
高津区	1	チーフ交流会	各施設館長・職員・チーフ	館長 職員 チーフ	1 7 2 6	高津こども文化センター
	2	応急手当研修	川崎市立病院 救命救急センター主任看護師 神山 由美子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 1 3 2 0 4 0 2	エポック中原
	3	中高生の現状理解と 居場所作りについて	川崎市教育委員会学校教育 部高津区教育担当指導主事 金子 清氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 1 4 4 1 4 1 0	二子こども文化センター
	4	中堅児童厚生員研修会 報告研修	上作延こども文化センター 原 淳子館長	館長 職員	4 2 5	上作延こども文化センター
	5	ホームページ研修	末長こども文化センター 堀込 峰久職員 梶ヶ谷こども文化センター 藤岡 啓太職員	館長 職員	2 1 2	末長こども文化センター
宮前区	1	レクリエーション研修	全日本レクリエーションリ ーダー会議 常任理事 荒牧 光子氏	館長 職員 チーフ サポーター	1 1 9 1 7 3 4	川崎市 青少年の家
	2	中高校生の対応研修	川崎市教育委員会学校教育 部 宮前区教育担当課長 安部 賢一氏	館長 職員 パートナー	7 3 0 6 3	宮前区役所向丘出張所
	3	中堅児童厚生員による 講習会	青少年事業課 麻生区運営指導担当 唯根 典子主査	館長 職員	5 2 1	宮崎こども文化センター

	4	特別な支援を必要とする児童対応研修	障がい児巡回相談員 桜井 正元氏 久保 マサ子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	1 15 17 20 1	宮前区役所向丘出張所
	5	保護者対応についての研修	向丘保育園 園長 安藤 眞貴子氏	館長 職員 チーフ	1 18 3	宮前区役所向丘出張所
多摩区	1	指定管理者に向けた事務研修（第三者評価チェックシート）	青少年事業課 麻生区運営担当 唯根 典子主査 多摩区運営担当 末吉 孝恵職員	館長	7	百合丘こども文化センター
	2	メディエーション研修	NPO法人日本メディエーションセンター 田中 圭子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	3 19 28 54 9	多摩市民館 大会議室
	3	中高生対応研修	川崎市教育委員会学校教育部 多摩区教育担当指導主事 鈴木 理恵子氏	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	3 15 10 30 25	多摩市民館 大会議室
	4	中堅児童厚生員研修会 報告研修	長尾こども文化センター 西本 征信館長	館長 職員	6 23	長尾こども文化センター
麻生区	1	指定管理者に向けた事務研修（第三者評価チェックシート）	青少年事業課 麻生区運営担当 唯根 典子主査 多摩区運営担当 末吉 孝恵職員	館長	9	百合丘こども文化センター
	2	アサーション研修	ケアストレスカウンセラー	館長 職員 チーフ サポーター パートナー	2 23 6 3	百合丘こども文化センター
	3	中高生研修	川崎市教育委員会学校教育部 麻生区教育担当指導主事 星野 泰夫氏	館長 職員 チーフ サポーター	2 23 16 10	麻生区役所
	4	中堅児童厚生員研修会 報告研修	白山こども文化センター 森村 雅子館長	館長 職員	4 23	百合丘こども文化センター
	5	食育研修	麻生区役所地域保健福祉課 管理栄養士 豊田 美由紀氏	館長 職員 チーフ サポーター	1 14 11 19	百合丘こども文化センター

② 館長登用、主任昇任及び職員の採用試験の実施

ア 館長登用試験

試験内容は以下のとおりです。(受験者3名；合格者1名)

平成23年1月10日(月・祝) 1次試験：小論文・プレゼンテーション

平成23年1月23日(日) 2次試験：個人面接

平成23年2月10日(木) 3次試験：役員面接

イ 主任昇任試験

試験内容は以下のとおりです。(受験者18名；合格者2名)

平成23年1月10日(月・祝) 1次試験：教養・小論文・集団討論

平成23年1月23日(日) 2次試験：個人面接

平成23年2月10日(木) 3次試験：役員面接

ウ 職員の採用試験

定年退職者、中途退職者の補充のために有資格者及び職務経験者（臨時職員として1年以上の勤務経験を有する者）を対象として採用試験を実施いたしました。

(受験者49名；合格者7名)

平成22年5月6日(木) 1次試験：教養・小論文・集団討論

平成22年5月19日(水) 2次試験：個人面接・パソコン技能試験

平成22年5月27日(木)・28日(金) 3次試験：役員面接

③ 児童館教育実習生の受入れ

平成22年度は、実習生19人を19館のこども文化センターで受け入れました。
受入れ一覧は次のとおりです。

学 校 名	受入人数	受け入れこども文化センター	受入期間
聖心女子専門学校	1	有馬	11日
東京福祉大学	3	柗形・幸・梶ヶ谷	12日
目白大学	2	二子・小杉	11日
上智社会福祉専門学校	1	虹ヶ丘	11日
町田福祉専門学校	3	東百合丘・片平・宮崎	12日
鎌倉女子大	4	下平間・柿生・高津・西加瀬	11日
東京家政大学	1	錦ヶ丘	10日
田園調布学園大学	4	麻生・大戸・宮内・宮前平	12日

④ インターンシップ（就業体験）の受入れ

平成 22 年度は 5 名の実習生を 4 館のこども文化センターで受け入れました。
受入れ一覧は次のとおりです。

学 校 名	受入人数	受け入れこども文化センター	受入期間
大東学園高等学校	1	錦ヶ丘	1 日
神奈川県立菅高校	2	南菅	1 日
神奈川県立川崎高等学校	1	小倉	5 日
川崎市立川崎高等学校	1	日進町	2 日

⑤ 職業体験の受入れ

平成 22 年度は 18 名の生徒を、3 館のこども文化センターで受け入れました。
受入れ一覧は次のとおりです。

学 校 名	受入人数	受け入れこども文化センター	受入期間
川崎市立南加瀬中学校	8	小倉・南加瀬	1 日
川崎市立御幸中学校	10	幸	1 日

⑥ 実践集の発行

今年度も各こども文化センター及びわくわくプラザで実施した主な活動を広く P
Rすると同時に、事業取組への参考とするために実践集を作成します。発行につい
ては、平成 23 年 8 月を予定しています。

⑦ 音楽室の利用状況

中高生のための居場所作りの一環として施設整備された音楽室の利用状況は以下
のとおりです。（南河原・白山は 17 年度開設、宮崎は 19 年度開設）

施 設 名	利用 団体数	利用者人数				
		小学生	中学生	高校生	一 般	合 計
南河原	654	30	81	1,105	415	1,631
白 山	682	72	172	1,304	348	1,896
宮 崎	475	0	16	587	427	1,030

今年度の利用内容は、3 施設ともロックバンドの練習が利用のほとんどで、ドラ

ム・ベース・アルトサックス・リコーダー・ピアノ・オカリナ・バイオリンなどの個々の楽器の練習にも利用されており、22年度も利用の中心は高校生となっています。

⑧ 地域子育て支援センター（児童館型）について

川崎市がこども文化センターにおいて実施した児童館型「地域子育て支援センター」の運営を平成20年10月に4カ所、平成21年7月に8カ所、平成22年7月に、さらに8カ所受託しました。平成22年度は計20カ所で週3日（9:30～12:30）「ふあみいゆ」の名称で多くの利用者に親しまれ、親子の交流の場として定着してきました。

気軽に利用できる遊び場として、また、行事の参加（親子リトミック、工作、食育講座、育児相談、身体測定等）などにより、多くの親子に利用されました。

平成22年4月から平成23年3月までの利用状況は以下のとおりです。

区	地域子育て支援センター	子ども人数	大人人数	合計人数
川崎	ふあみいゆ殿町	843	820	1,663
川崎	ふあみいゆ田島	548	480	1,028
川崎	ふあみいゆ浅田	2,185	1,768	3,953
幸	ふあみいゆ南河原	3,616	3,413	7,029
幸	ふあみいゆ幸	1,593	1,351	2,944
幸	ふあみいゆ小倉	1,791	1,564	3,355
中原	ふあみいゆ新丸子	2,293	2,132	4,425
中原	ふあみいゆ平間	2,405	2,348	4,753
中原	ふあみいゆ大戸	3,239	3,263	6,502
中原	ふあみいゆ宮内	2,008	1,883	3,891
高津	ふあみいゆ東高津	2,019	1,829	3,848
高津	ふあみいゆ子母口	2,218	1,883	4,101
宮前	ふあみいゆ宮崎	3,184	3,116	6,300
宮前	ふあみいゆ野川	2,034	1,949	3,983
宮前	ふあみいゆ平	2,576	2,401	4,977
多摩	ふあみいゆ枡形	2,723	2,466	5,189
多摩	ふあみいゆ中野島	1,904	1,827	3,731
麻生	ふあみいゆ千代ヶ丘	1,863	1,644	3,507
麻生	ふあみいゆ柿生	1,547	1,522	3,069
麻生	ふあみいゆ片平	1,321	1,212	2,533
合 計		41,910	38,871	80,781

⑨ 子育て支援・わくわくプラザ事業について

平成 20 年 4 月（2 月から試行実施）より川崎市からの委託業務として、保護者の就労等により午後 6 時までに児童の迎えが難しい保護者の為に、子育て支援の視点から午後 7 時までの児童の居場所と安全を確保する「子育て支援・わくわくプラザ事業」を、すべてのわくわくプラザ室において実施しました。

平成 22 年度は 1,774 名が登録し、延べ 106,453 名の児童の利用があり、年々増加傾向にあります。

児童の登録及び利用状況の推移

年度	登録児童数		延べ利用人数		一ヶ月平均利用人数	
20年度	1,170	(37)	80,294	(2,815)	6,691	(235)
21年度	1,581	(48)	95,637	(4,044)	7,970	(337)
22年度	1,774	(61)	106,453	(4,743)	8,871	(395)

* 登録児童数は 3 月現在の数 * () 内は特別な支援を必要とする児童数

⑩ 放課後学習支援事業（学びの場）について

教育委員会が、平成 20 年 11 月から 7 施設で「川崎市放課後子どもプラン」の「学びの場」として実施している「放課後学習支援事業」（週 2 回、1 回 2 時間）については、受託先の NPO 法人教育活動総合サポートセンターと連携を図り、教職を目指す学習アドバイザーが、わくわくプラザのスタッフと協力して児童の自学・自習の支援を行いました。

平成 22 年度においても 10 施設（藤崎・幸町・平間・新作・有馬・生田・東小田・荻宿・白幡台・金程小学校わくわくプラザ）にて実施しました。

⑪ 騒音差止等請求事件について

平成 22 年 9 月 3 日付けで、野川こども文化センターに隣接して居住する住民から、川崎市及び同施設の管理・運営を受託する当財団を被告とし、同センターのプレイパークで活動する子どもたちの発する声や音を騒音として、川崎市と共に提訴され、民事裁判となっています。

請求の趣旨は、こども文化センターと住民の土地の「境界線上において、午前 8 時から午後 6 時までの館は 50 デシベルを超える騒音を、午後 6 時から午後 9 時までの館は 45 デシベルを超える騒音を到達させてはならない。」との裁判を求める内容です。当財団では、顧問弁護士を被告の訴訟代理人として委任し、現在、3 回目の弁論準備期日を終えたところです。

Ⅳ 理事会・評議員会に関する事項〔平成22年度（7－3月期）〕

1 理事会

会議名	日 程	議 案 ・ 報 告	会 場
公益法人 第1回	平成22年 7月1日	議案 1 理事長、副理事長、常務理事の選定について 2 事務局長の選任について 3 規則の制定について 4 平成22年度事業計画について 5 平成22年度(7-3月期)予算について 6 契約変更について（指定管理者契約） 報告 1 第1回評議員会の開催について 2 評議員会運営規則の制定について 3 経営基本方針、新経営改善計画及び中長期計画（改訂版）の制定について 4 理事の選任について	かわさき市民活動センター会議室
公益法人 第2回	平成22年 7月16日	議案 1 常務理事の選定について	川崎市生涯学習プラザ会議室
公益法人 第3回	平成22年 8月23日	議案 1 平成22年度(4-6月期)事業報告・決算について 2 平成22年度第2回評議員会の開催について 3 川崎市こども文化センター指定管理者への応募について 報告 1 規則の改正について	かわさき市民活動センター会議室
公益法人 第4回	平成22年 11月29日	議案 1 平成22年度(7-3月期)11月補正予算について 2 平成22年度第3回評議員会の開催について 報告 1 川崎市こども文化センター指定管理者への応募と選考結果について 2 平成22年度(7-3月期)上期の事業報告について 3 騒音差止等請求事件について 4 川崎市への返還金について 5 規則の改正について 6 職員の処分について 7 全市的イベントの実施予定について	かわさき市民活動センター会議室

公益法人 第5回	平成 23 年 3 月 22 日	議案 1 平成 22 年度 (7-3 月期) 3 月補正予算について 2 規則の制定について 3 平成 23 年度事業計画について 4 平成 23 年度予算について 5 平成 23 年度第 1 回評議員会の開催について 報告 1 監事監査規程の制定について 2 騒音差止等請求事件の進捗状況について 3 全市的イベントの開催結果について 4 青少年事業課職員の昇任試験について	かわさき市民活 動センター会議室
-------------	---------------------	---	---------------------

2 評議員会

会議名	日 程	議 案 ・ 報 告	会 場
公益法人 第 1 回	平成 22 年 7 月 1 日	議案 1 評議員会運営規則の制定について 2 経営基本方針、新経営改善計画及び中長期計画 (改訂版) の制定について 3 理事の選任について 報告 1 平成 22 年度補正予算について 2 理事長、副理事長、常務理事の選定について 3 事務局長の選任について 4 規則の制定について 5 平成 22 年度事業計画について 6 平成 22 年度 (7-3 月期) 予算について 7 契約変更について (指定管理者契約)	かわさき市民活 動センター会議室
公益法人 第 2 回	平成 22 年 9 月 17 日	議案 1 平成 22 年度 (4-6 月期) 事業報告・決算について 報告 1 川崎市こども文化センター指定管理者への応募について 2 規則の改正について	かわさき市民活 動センター会議室
公益法人 第 3 回	平成 22 年 12 月 16 日	報告 1 平成 22 年度 (7-3 月期) 11 月補正予算について 2 川崎市こども文化センター指定管理者への応募と選考結果について 3 平成 22 年度 (7-3 月期) 上期の事業報告について 4 騒音差止等請求事件について 5 川崎市への返還金について 6 規則の改正について 7 職員の処分について 8 全市的イベントの実施予定について	かわさき市民活 動センター会議室

【参考】

理事会・評議員会に関する事項〔平成22年度（4－6月期）〕

1 理事会

会議名	日 程	議 案 ・ 報 告	会 場
第1回	平成22年 4月1日	議案 1 正副理事長及び常務理事の互選について	かわさき市民活動センター会議室
第2回	平成22年 5月26日	議案 1 平成21年度事業報告について 2 平成21年度決算報告・決算監査報告について 報告 1 公益財団法人移行認定申請について 2 年度協定書について 3 平成21年度新経営改善計画及び中長期計画(改訂版)の進行管理について	川崎市生涯学習 プラザ会議室
第3回	平成22年 6月25日	議案 1 平成22年度補正予算について 報告 1 公益財団法人移行認定申請について 2 規則の改正について	かわさき市民活動センター会議室

2 評議員会

会議名	日 程	議 案 ・ 報 告	会 場
第1回	平成22年 5月26日	報告 1 平成21年度事業報告について 2 平成21年度決算報告・決算監査報告について 3 公益財団法人移行認定申請について 4 年度協定書について 5 平成21年度新経営改善計画及び中長期計画(改訂版)の進行管理について	川崎市生涯学習 プラザ会議室